

**=市史編さん便り=** 【60号】 令和4年3月30日(水) 発行.

\*\*\*\*\*土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

## 『新市史』通史編(720 頁)に資料編(500 頁)を加えて令和 5 年度末に発刊予定!

今月 25 日の市議会の議決を経て、標記のように『新・市史』が大幅に頁数を増やし、グレードアップさせ、刊行を 1 年延長し、令和 5 年度末に刊行する運びとなりました。「通史編」は、「市民のための地域学の基軸書」をめざし、初心者でも郷土史に親しめる内容を目標に記述しています。これに対し、「資料編」は、「郷土史研究者に資料として役立つ専門的な内容」を記述し、郷土史研究者にも満足いただける内容としていく方針です。

### —資料編を作成することになった背景—

昭和 29 年 (1954) 8 月 1 日、当時の清水町・三崎町・下川口町・下ノ加江町の 4 町が合併し、「土佐清水市」として市制が発足した。同年 9 月 2 日、市長選挙の結果、福島克明氏が当選し、初代市長に就任した。また、市議会議員は、清水(定数 12 名)、三崎・下川口・下ノ加江(定数各 6 名)であり、旧町を 4 選挙区に分割し、計 30 名の市議会議員が選出され、市政運営体制が整えられた。

昭和 30 年(1955)1 月 26 日、市制と足摺岬国定公園指定祝賀式が、当時の清水中学校(現市庁舎)で開催された。煙火の打ち上げ、高知新聞社のセスナ機による祝賀メッセージの空中投下、港内停泊漁船の大漁旗、商店街の万国旗等々、街中が祝賀ムードで彩られた。

以来、今年で 68 年が経過する。ちょうど市制発足 70 周年が令和 6 年(2024)であり、これを記念し、『新市史』に資料編を新たに加え、グレードアップさせてはどうかとの声もあり、市議会に報告し、令和 5 年度末刊行をめざし、取り組むことになりました。

### 『新市史』の内容(概要)

《通史編》15 章から構成 「市民のための地域学の基軸書」

考古・古代・中世・近世・近現代・以南偉人伝・戦争遺跡・同和教育史・学校教育史・市政史・防災史・民俗伝承・地勢地形地質・植物・動物

《資料編》「郷土資料として活用できる専門的な内容」

- ①市域出土の縄文&弥生時代の土器片及び石鏃等の写真
- ②古代・中世・近世・近現代にかけての市域関係文書

- ③中世～近世にかけての石造物(五輪塔・石仏)等の実測図、分布図や写真
- ④近世～近現代にかけての自然災害碑の写真や銘文拓本及びその翻刻
- ⑤中世山城分布図や縄張り図
- ⑥市域戦争遺跡の関係図面や写真、分布図等
- ⑦同和教育における教材や実践例
- ⑧学校資料(文集・教材・教具・校舎写真)
- ⑨民俗資料(民具・里謡等の歌詞)
- ⑩その他(「通史編」の補足)

## ◎編集後記……年度末にあたって

市史編さん事業4年目、市史編さん室設置3年目の令和3年度がまもなく終了しようとしています。先日、加久見地区タクラ山に登山して中世山城調査を実施したことは『市史編さん便り59号』で紹介したところです。本年度も「調査に始まり、調査に終わった」気がします。

市史編さん室設置3年目の今年は、有難いことに市史普及啓発活動における学校現場への出前講座が盛況でした。防災関係の自然災害碑や古文書を通しての講座、民具等を通じた講座の依頼がたくさんあり、講座を開き、学校に訪問させていただきました。

特に本年度は、市内小中学校長会の研修、足摺岬小学校校内研修等、教職員の研修で歴史講座を開設させていただきました。児童・生徒ばかりではなく、指導者である教職員の皆様に講座を通してお話しさせていただいたことは、大きな成果だったと思います。

課題もあります。講座のほとんどが小学校や一般市民向けであり、市内の中学生や高校生向けの講座の依頼がなく、市史編さん事業の成果をこれらの学校に十分にお伝えすることができなかつたことです。ただ、そのお知らせやご依頼に訪問させてはいただきましたが、カリキュラム等の現場の多忙化があるのでしょうか。依頼件数は、ゼロで残念な結果でした。

市史編さん普及啓発の出前講座は、地域の歴史や文化をより身近に感じてもらう有効な手立てだと思います。学習指導要領にも地域の博物館や施設等の有効活用が記載されています。私も元は清水中学校の社会科教員です。中高の社会科教員免許状(専修免許)も持っています。中学校・高校の先生方にもっと身近にご活用いただければと思います。この機会にご一考ください。



真念庵登道途中の民家の石垣に色鮮やかに咲いていた「芝桜」。私のことを忘れないでねと、遍路さんにアピールしているようにとても色鮮やかでした。人が見ようが、見まいが、精いっぱい咲き誇る芝桜に学ぶこと多し。(田村)